



TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup2022 Rd.3 TOKACHI

ウェットとなった予選では阪口選手が7位となるが 決勝レースでは石坂選手の19位が最高位と苦戦を強いられた

Qualifying | #7 / DNS • #700 / 7th / 1'36.314
#770 / 16th / 1'36.907

▶ 2022.09.24.SAT

▶路面コンディション：ウェット ▶気温；20℃ ▶路面温度：20℃

今季から新たなシリーズとして開幕した「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」。初年度となった今シーズンは7月に開幕し、11月の最終戦までに5大会6戦が予定されている。7月に富士スピードウェイで開幕戦が行なわれ、8月にはスポーツランド SUGO で第2戦を、そして第3戦は本州を離れて十勝スピードウェイでの開催。第3戦のスケジュールは、9月23日(金)にタイム計測が実施される専有走行、24日(土)に予選、25日(日)に14週の決勝レースとなっている。

「T by Two CABANA Racing」は2018年より前身となる86/BRZ Raceのプロフェッショナルシリーズに参戦し、今季はチームの母体となる株式会社東名の社員ドライバー堤優威選手が7号車に、経験豊富な阪口良平選手が700号車に、若手ドライバーで上位カテゴリーへのステップアップを目指す石坂瑞基選手が770号車に乗り、3台体制でGR86/BRZ Cupを戦うこととなった。

台風14号が本州を縦断したため機材が到着するか危ぶまれたが、チームは予定通りの9月22日(木)から走行を始める。十勝スピードウェイは他のカテゴリーが開催されることが少なく走行機会が限られている。石坂選手はこの日が初の走行となり、路面コンディションや走行ラインなどを探りながらスタート。堤選手と阪口選手は86/BRZ Raceでの参戦経験が豊富で、ともに表彰台に登った経験がある。

走り始めの22日はドライコンディションとなり、3台ともにまずはマシンの確認とセットアップを進める。一転して

23日はウェットコンディションとなるが、午前中と昼過ぎに2本のスポーツ走行枠が設けられていて、15時からタイム計測が行なわれる専有走行が実施された。予選日となる24日も降雨が予報されていたため、コース上には水溜まりが出来るほどの難コンディションだったが3台は走行を続ける。専有走行枠ではやや雨量が減るタイミングもあり出走した29台がタイムを伸ばしていく。翌日の予選が荒天などによりキャンセルとなった場合は専有走行のタイムでグリッドが決まる可能性があり、どの選手もベストタイムを狙って走行する。結果的には、堤選手が1分44秒692で7番手、阪口選手が1分46秒015で14番手、石坂選手が1分46秒194で15番手となった。だが、堤選手は専有走行の最終盤にコースオフしガードレールにマシン後端から激しく接触してしまう。このクラッシュにより車両の修復が難しく十勝スピードウェイラウンドはここでリタイヤとなった。

24日(土)の予選日も朝からサーキットは雨雲で包まれた。だが12時35分からスタートしたプロフェッショナルシリーズの予選時は雨雲の切れ間となり、路面は濡れているものの車両が走行を続ければ乾いていく可能性があった。阪口選手、石坂選手ともに予選開始から終了までの15分間を走り続けた。やはり路面コンディションは周回を重ねるごとに改善していき、阪口選手は終盤に掲示モニターのトップに表示されるがその後タイムを更新する選手が現われ最終的に1分36秒314で7位、石坂選手は計測9周目に1分36秒907をマークするが16位で予選を終えた。





23日の専有走行、24日の予選とウエットコンディションとなったが、決勝レース日の25日は朝から日が差し込み、十勝スピードウェイの西側にそびえる日高山脈なども見渡せる天気となった。前日までは長袖に上着をはおるほどの涼しさだったが、この日は気温が20℃を超えて半袖でも過ごせる気持ちの良い秋晴れとなる。

プロフェッショナルシリーズの決勝レースは11時10分からスタート進行の予定だったが、事前のレースが遅れた影響で35分ディレイの11時45分にマシンがコースイン。700号車の阪口選手は7番手グリッド、770号車の石坂選手は16番手グリッドからのスタートとなった。専有走行でクラッシュを喫した7号車の堤選手は、マシンの修復ができず未出走となっている。

27台のマシンがフォーメーションラップを終えると14週の決勝レースは、12時4分にスタートする。阪口選手はポジションをキープしたままアウト側から1コーナーを目指した。続く1コーナーと2コーナーをつなぐストレートでもアウト側を走行し、2コーナーに入るときにイン側のマシンが寄ってきたため後退して接触を避けた。だが、さらにアウトにはらんできたためコース外へ押し出される状況となり

コースオフ。このアクシデントによりマシンが損傷し、リタイヤとなった。

16番手からスタートした石坂選手は、課題だったスタートを成功させるとポジションを上げて1コーナーに進入する。だが、イン側のコース外から1コーナーにアプローチしてきたマシンと接触し、右側のミラーを含めた外装を破損してしまう。この接触によりポジションを下げると1周目のコントロールラインを19番手で通過する。2周目もオープニングラップの接触によってペースが上がらず3台にパスされてしまい22番手まで後退。レースが落ち着きを見せた4周目には1分35秒台のラップタイムで周回できるようになったが、前方の集団からは離れてしまう。9周目には自己ベストタイムの1分35秒126をマークして20番手まで順位を戻したが、さらにポジションを上げるスピードはなく14周目に20位でチェッカーを受けた。正式結果では上位に入ったマシンが車両違反により失格となったため19位となった。

十勝スピードウェイ戦は3台ともに結果が残せず、今シーズンの3戦でもっとも厳しい内容となってしまった。クラッシュを喫した7号車は、次戦の鈴鹿サーキットまでに修復するように準備を進めていて、3台での出走を予定している。





Hiroshi Ando

Team Chairman/Director's Comment

安藤 宏チーム代表兼監督

今回の十勝スピードウェイ戦は3台ともに満足できる結果が残せず残念な内容となってしまいました。7号車は専有走行中のクラッシュにより出走できず、関係者やファンの皆様にはご心配をおかけしました。700号車は手応えのある予選でしたが、決勝レースでは早々にコースアウトを喫してしまい阪口選手も悔しい結果だったはずですが、770号車は決勝レースでの不必要な接触でペースが上げられずスタート順位より下げてのチェッカーでした。このレース結果や内容を検証し直し、次戦以降は納得いただける結果を目指します。



Yuui Tsutsumi

Driver's Comment

#7 T by Two カバナ BS GR86 堤 優威選手

まずは専有走行でのクラッシュによりレースに出走することができず、スポンサーをはじめ多くの関係者、ファンの皆様には申し訳ありませんでした。今季はマシンの状況や調子も良く、十勝スピードウェイではドライもウェットコンディションも自信ある状態でした。専有走行では予選がキャンセルになることを想定してタイムを残しにいきました。そこで焦りがあったのかもしれませんが、コースオフしてしまいました。マシンを失うことも残念ですし、チームにも迷惑をかけてしまいました。次戦まで1ヶ月しかありませんが、戦える体制を整えます。



Ryohei Sakaguchi

Driver's Comment

#700 MOTUL TWS GR86 阪口 良平選手

事前の鈴鹿サーキットでのテストからマシンのセットアップが決まりつつあり、十勝スピードウェイ戦に自信を持って臨みました。持ち込みの状態ではややオーバーステアでしたが、タイヤの内圧やセットアップを煮詰めて行くことで戦えるマシンとなりました。予選では雨を想定して少しセットアップを外しましたが、それでも7番手の結果を残すことができました。決勝レースはスタート直後の1、2コーナーの混乱で接触を避けたのですが、その際にコースオフしてリタイヤとなりました。ポテンシャルはあっただけに残念な結果でした。残りの鈴鹿と岡山は得意なサーキットなので、何としても結果を残したいです。



Mizuki Ishizaka

Driver's Comment

#770 FORCE LABO カバナ GR86 石坂瑞基選手

十勝スピードウェイは走行経験がなく、最初は堤選手や阪口選手を手本にしてテストを続けました。ウェットコンディションでは開幕戦から自信を持っていましたが、今回はこれまでの速さがなく苦戦しました。予選は雨用のセットアップで走ったために、コンディションが回復していった最後にタイムが伸びず16位となりました。決勝レースは課題だったスタートを上手く決められ1コーナーまでにポジションを上げましたが、進入でイン側から接触されて後退しました。追いつけようと思いましたがペースも上がらず非常に悔しい結果でした。



Noboru Yamazaki

Chief Engineer's Comment

山崎 登チーフエンジニア

事前のテストを含めてそれなりの準備は整えてきたつもりでしたが、3台ともに結果が残せず悔しい内容となりました。22日の走り始めから路面コンディションが変わっていき、天気も予想しづらい状況でした。石坂選手は十勝スピードウェイの走行経験がなく、少しでも走行距離を稼ごうとしましたがトラブルもあり想定したプランにはなりません。阪口選手は上位で戦える手応えがありましたが、コンディションの判断も含めてあと少し足りませんでした。次戦まで時間がないですが、準備を進めて今回の借りを返したいです。